

弘前市第三セクター評価委員会のこれまでの経緯等

平成 20 年 8 月	弘前市第三セクター点検評価委員会を設置
平成 21 年 1 月	弘前市第三セクター点検評価報告書（※1）
平成 23 年 2 月	弘前市第三セクター改革プラン
平成 23 年 3 月	弘前市第三セクター評価委員会を設置
平成 27 年 2 月	弘前市第三セクター改革プランの総括 （資料4—①、資料4—②）

※1 弘前市第三セクター点検評価報告書より

各第三セクター法人の今後のあり方に対する提言（抜粋）

(1) 財団法人岩木振興公社

「経営状況について」の判断により、当該公社の従前どおりの事業継続を提言する。当該公社は県外客に人気のある温泉宿であるが、地域への貢献という視点が弱かった。しかし、弘前市の第三セクターとして考えるならば、その意義は地域の観光振興に寄与することにある。よって、弘前・岩木山周辺の観光資源のPRに今後一層の役割を担うことを期待する。

また、市が運営するスキー事業の低迷を考慮すると、スキー場関連資源の通年での利用促進において、当該公社を主体とするイベント事業を積極的に検討してもらいたい。

(2) 財団法人星と森のロマントピア・そうま

「経営状況について」の判断により、総合的には当該公社の事業存続を提言する。ただし、経営状況および財務開示の資料が大雑把であり、事業施設毎で見た採算性が判別できなかった。収益性にどのような問題が潜んでいるのかが掴めず、どの事業

施設の収益性が高く、またどの事業施設を改善すべきかについて、委員会は細かく点検できなかった。今後は事業（施設）別に財務開示を行うべきである。

また、現状では第三セクターの各法人で財務開示の方法が統一されておらず、情報公開の程度が法人間で大きく異なっている。この点について、第三セクターの経営と財務の開示について統一基準が必要であろう。

同法人は岩木振興公社と極めて類似した事業主体であり、両者の一体化を検討すべきものと思われる。今後は両者の連携や統合により、一層の経営改善を図ってもらいたい。